

## 会津白虎隊を訪ねて

岡崎 起恵子

私は福島県出身で、郡山盲学校に学びました。中学までの学校で、今は閉校となり、100人ほどの同窓会だけが残っています。2年に1度集まって、旧交を温めるのですが、今年は6月第3土曜日から、一晩泊まりで行われました。郡山は岡山から千キロ、こんな遠くまで来て、1泊で帰るなんて、どう考えてももったいないでしょう。というわけで、私は19日の火曜日に帰ることをまず決めました。それから火曜日の午前中に福島市の親戚の家を訪ねる約束をしました。残るは間の月曜日。どこへ行こうか？何をしようか？盲導犬テディと共に、あれこれと考えたのですが、なかなかいいアイデアが浮かびませんでした。みんな忙しいのです。私みたいな暇人につき合っているわけにはいかないのです。

宿泊はほとんど東横インに決めています。わたしはメンバーズカードを持っているので、「犬」で断られる理由はないからです。

そんなわけで、月曜の朝は、郡山の東横インで、ゆっくり朝食などしたため、10時のシャトルバスで郡山駅まで送ってもらいました。

前から会津白虎隊のお墓がある所へ行ってみたいとは思っていました。猪苗代湖や野口英世の生家などと共に、盲学校の遠足などで、何度か行ってはいるはずなのですが、あまり記憶には残っていないので、今度は自分の足で、目的意識を持って、もう1度訪ねてみるのもいいなあなどと考えたのです。

郡山駅で会津若松行きの切符を買おうとしたら、「手帳はお持ちですか？」と訊かれました。距離的に半額にならないことは知っていましたが、とり



あえず見せてあげることにしました。「申し訳ありません。単独だと半額にならないんですよねえ…」。ところが、「ダブルきっぷ」というのがあって、2枚買うと少し安くなるということでした。行き帰りにどちらの切符を使ってもいいそうです。

磐越西線の快速でも、会津若松までは1時間以上かかります。若松駅に着いたのは12時ちょっと過ぎでした。JRの方に案内してもらって、コインロッカーへキャリーバッグを入れたのですが、最近のコインロッカーは、ただお金を入れて鍵を引き抜くというものばかりではなく、タッチパネルで操作しなければならないものが増えてきました。視覚障害者には、自力で使うことができないのです。

JRの方には、お手数のかけついでに、観光案内まで連れて行っていただきました。以前、白虎隊の観光ボランティアがいると聞いていたので尋ねてみると、土・日だけしかやっていないということでした。そんなこと、前もって調べておけばいいものを…。

若松市内には、2系統の観光バスが通っています。「あかべー」と「ハイカラさん」で、若松駅を起点に、時計回りと、反時計回りに循環しています。私はとりあえず「あかべー」に乗りました。これでぐるっと回れば、なんとなく若松市内を観光した気

分になると思ったからです。この方法は、2週間前に新潟へ行ったときに覚えた遊びなのです。

ところが、5つ目の停留所で「飯盛山下（いいもりやました）」なんて言うものだから、「あっ！やっぱりここで降りよう！」と、急いで降りる準備をして、とりあえずバスを降りたのでした。なんと無計画で行き当たりばったりなことか…！

ちょうどまい具合に、バス停の真ん前に観光案内のブースがありました。とてもさわやかな感じのきれいなおねえさんが、盲導犬のテディにお水をたくさんふるまってくれました。白虎隊のお墓は、ここから180段の階段を上るか、250円でエスカレーターを使うか、旧参道に行くかと、3つの選択肢があります。「180段の階段なんて、私でも大変なんだから、旧参道を行った方がいいですよ。」と、そのおねえさんはアドバイスしてくれました。

「私が一緒に行ってあげたいんだけど、ここに私一人なもんで、離れるわけにいかなくてごめんなさい。」とも言ってくれました。とりあえず、両側にずらりとおみやげ屋さんがならぶ道まで案内してもらい、あとはテディと二人で歩いて行きました。おみやげ屋さんが無くなるあたりで、右の方からエスカレーターの案内が聞こえてきました。正面は階段。たぶん左の方が旧参道なのだろうと思いましたが、180段ぐらい何とかなるだろうと思ったので、そのまま上がって行くことにしました。

途中から、宮城県から来たというご夫婦(?)と一緒にになりました。山の頂上で、お線香をどこで買ったらいいのか尋ねると、指ぐらいの束が50円で売っていて、お金はそこにあるお盆に入れておけばいいと教えてくれました。無人なのです。その方たちが燃えている練炭で火をつけてくれて、石灯籠みたいなところに備えるのを手伝ってくれました。

「申し訳ありませんが、証拠写真を1枚撮っていただけませんか？」

とお願いして、携帯でお墓をバックに撮っていただきました。そして、その二人はそのまま降りて行きましたが、私は白杖も使って、テディとゆっくり・ゆっくり降りて行きました。

おみやげ屋さんの縁台で、梅のお茶などご馳走になりながら、白虎隊のお話を聴かせてもらいました。明治元年の戊辰戦争（ぼしんせんそう）で、16・7歳の少年兵たちが、飯盛山の上で、南の鶴ヶ城の方から煙が上がっているのを、落城したものと思い込んで、飯沼貞吉一人を残して、全員自害しました。遺体を動かしてはならぬと言う命令に、村人たちは、夜中にこっそり運び出して、お寺の井戸に隠したそうです。それから7年後に、この飯盛山にお墓を作って、遺骨を安置したということでした。なんともむごたらしい話ではありますが！2度とこんなことが起こらないようにと、強く願うものですが、70余年前の戦争で、どれだけの若い命が犠牲になったことか…。

私はそのお店で、会津ゆべしを3箱買いました。それからまた歩いて、最後のおみやげ屋さんで、孫の幹のために、5両編成の木製の汽車ぽっぽを買って、無事観光案内のところへ戻る事ができました。

観光案内のおねえさんが、階段を上ったと言ったら、本当にびっくりしていました。私が見えないから、みんな驚くのかなあとも考えましたが…。

そこに10人ぐらいの小学生がバス待ちをしていました。仙台から修学旅行で来ていて、班ごとに自由行動をしているということでした。小学生たちと私は、再びあかべーに乗りました。前の方の席は狭くて、テディのために、小学生たちに後ろの席を空けてもらったりしました。私は子どもたちに会えたのが嬉しくて、キャンディーを二袋あげました。一袋はカフェラテでしたが、もう一袋はエスプレッソだったので、「うわあ、苦い！」なんて言わないかなあと、ちょっと心配ではありましたが…。

子供たちは途中でおりましたが、私はそのまま駅まで行きました。お蕎麦屋さんでとてもおいしい手打ち蕎麦を食べたり、小さ

い「赤ペコ」を買ったり、観光案内の方たちにお礼を言ったりして、帰りは各駅停車の郡山行きに乗りました。一つ一つ駅名を聴きながら、ゆっくり行くのもまた楽しいのです。あの先輩は、ここから盲学校まで通っていたんだなあとか、ここへは遠足で来たっけなどと考えているうちに、1時間15分が過ぎて、郡山駅に帰ってきました。

まだまだ書きたいことがたくさんありますが、まあ、このあたりで止めておきましょう。ただ一つ、あとで携帯の写真を見てもらって、「石碑がたくさんあるんだねえ」などと言われた時、なぜ私はそれに触ってこなかったんだらうと悔やみました。「目的地まで行った！」ということだけで、もうそれ以上、心にゆとりがなかったのだと思います。来年は猪苗代湖畔で、全犬使会の集まりがあるので、もう1度白虎隊のお墓参りをして、今度こそ、全部の石碑に触ってこようと、強く思ったのでした。